

北海道観光入込客数調査報告書

平成26年度

平成27年8月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成26年度の観光入込客数は、5,377万人となりました。

春や秋の観光シーズンの好天や十年に一度という美しさの紅葉に恵まれ、2月・3月は暖冬となったほか、JR特急列車の運行再開、道外航空路線の夏限定運航による交通アクセスの向上などがあったことなどから、6月の長雨、8月・9月の大雨や幹線道路の通行止め、12月・1月の暴風雪による交通機関の障害などの影響はありましたが、前年度に比べ1.3%の増加となり、昨年度の5,310万人を超え過去最高を更新しました。

2 道内客・道外客・外国人別

道内客・道外客・外国人別にみると、道内客は4,654万人、道外客は569万人、外国人が154万人となり、構成比では、道内客が86.6%、道外客が10.6%、外国人が2.9%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,668万人、宿泊客は1,709万人となり、構成比では、日帰り客が68.2%、宿泊客が31.8%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,495万人（構成比27.8%、前年度比0.9%増）、第2四半期が2,054万人（同38.2%、同0.4%増）、第3四半期が862万人（同16.0%、同2.9%増）、第4四半期が967万人（同18.0%、同2.3%増）となっています。

<平成26年度 観光入込客数(実人数)>

区 分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比
第1四半期 (4~6月)	道内客	242万人	1,341万人	+0.4%	89.7%
	道外客	127万人	128万人	+0.8%	8.6%
	外国人	25万人	25万人	+28.5%	1.7%
	合 計	1,101万人	394万人	1,495万人	+0.9%
第2四半期 (7~9月)	道内客	280万人	1,808万人	+0.1%	88.0%
	道外客	198万人	206万人	+0.5%	10.0%
	外国人	40万人	40万人	+20.2%	1.9%
	合 計	1,536万人	518万人	2,054万人	+0.4%
第3四半期 (10~12月)	道内客	243万人	708万人	+1.9%	82.1%
	道外客	119万人	120万人	+0.8%	13.9%
	外国人	33万人	33万人	+40.2%	3.8%
	合 計	467万人	395万人	862万人	+2.9%
第4四半期 (1~3月)	道内客	234万人	797万人	+0.5%	82.4%
	道外客	113万人	114万人	±0.0%	11.8%
	外国人	56万人	56万人	+43.9%	5.8%
	合 計	564万人	402万人	967万人	+2.3%
合 計	道内客	999万人	4,654万人	+0.5%	86.6%
	道外客	556万人	569万人	+0.7%	10.6%
	外国人	154万人	154万人	+33.7%	2.9%
	合 計	3,668万人	1,709万人	5,377万人	+1.3%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

平成26年度の訪日外国人来道者数は、国際定期便の新規就航や増便、クルーズ船の寄港の増加、査証要件の緩和、免税制度の拡充、円安基調の継続などから前年度に比べて33.7%増加し、154万1,300人となり、過去最高を更新しました。

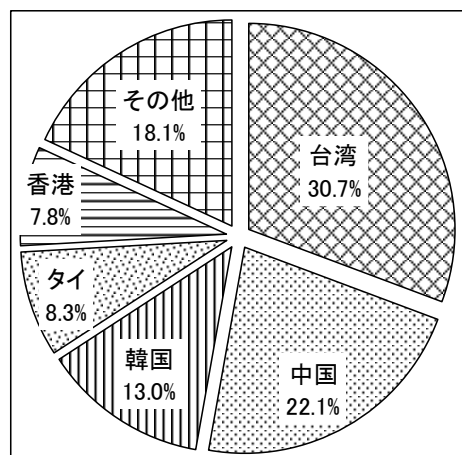
なお、これは日本全体の平成26年度訪日外国人旅行者1,467万人の10.5%となっています。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は135万2,500人で、前年度に比べて36.1%の増加となりました。

国・地域別で見ると、台湾が47万2,700人（前年度比13.7%増）と最も多く、次いで、中国が34万人（同114.8%増）、韓国が20万1,100人（同42.0%増）、タイが12万8,300人（同29.9%増）、香港が12万200人（同12.0%増）となっています。

来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。



台湾	8月に高雄市で発生したガス爆発事故の影響による旅行意欲の低下が懸念されましたが、円安による旅行商品の割安感や、繁忙期に合わせた増便やチャーター便の運航により、前年度と比べ約14%増となりました。
中国	5月の桜・芝桜の鑑賞ツアーが定着したことや、円安傾向と10月からの免税制度拡充が相まってショッピング目的の需要を喚起しているほか、1月に開始された個人観光数次ビザの発給要件緩和、航空便の増便やチャーター便での送客の増加により、前年度と比べ約115%増と大幅な伸びとなりました。
韓国	4月に発生した旅客船沈没事故に伴い、旅行の自粛等が懸念されましたが、年度をとおしてウォン高円安の傾向が継続したことやピーク時のLCCの増便・臨時便の運航、9・10月の連休のほか、2月の旧正月の大型連休もあり、特に下期においては、前年度同期比で74%増加し、年度では前年度比約42%増となりました。
タイ	雪のある冬の日本に対する良好なイメージが浸透しており、さっぽろ雪まつりを組み込んだ北海道ツアーの人気の高かったほか、企業・団体のインセンティブ旅行が多く催行されたことなどから、前年度と比べ約30%増となりました。
香港	冬の人気訪問地である札幌への増便やチャーター便、旧正月休暇の団体旅行商品の人気などに加え、円安効果、免税制度の拡充を背景に、前年度と比べ約12%増となりました。

<平成26年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		中 国	韓 国	台 湾	香 港	シンガポール	マレーシア	タイ	小計
第1四半期 (4~6月)	26年度	39,800	35,300	89,100	20,000	8,500	13,400	23,200	229,300
	25年度	18,900	31,500	80,700	18,700	7,800	6,800	11,500	175,900
	前年同期比	+110.6%	+12.1%	+10.4%	+7.0%	+9.0%	+97.1%	+101.7%	+30.4%
第2四半期 (7~9月)	26年度	63,500	65,400	132,900	36,600	13,000	17,200	37,700	366,300
	25年度	32,300	52,300	125,100	36,500	12,900	13,100	29,700	301,900
	前年同期比	+96.6%	+25.0%	+6.2%	+0.3%	+0.8%	+31.3%	+26.9%	+21.3%
第3四半期 (10~12月)	26年度	60,700	39,300	124,300	32,700	14,300	7,600	17,200	296,100
	25年度	28,200	18,500	102,600	28,000	10,500	5,700	12,300	205,800
	前年同期比	+115.2%	+112.4%	+21.2%	+16.8%	+36.2%	+33.3%	+39.8%	+43.9%
第4四半期 (1~3月)	26年度	176,000	61,100	126,400	30,900	5,100	11,100	50,200	460,800
	25年度	78,900	39,300	107,200	24,100	4,400	10,800	45,300	310,000
	前年同期比	+123.1%	+55.5%	+17.9%	+28.2%	+15.9%	+2.8%	+10.8%	+48.6%
合 計	26年度	340,000	201,100	472,700	120,200	40,900	49,300	128,300	1,352,500
	25年度	158,300	141,600	415,600	107,300	35,600	36,400	98,800	993,600
	前年同期比	+114.8%	+42.0%	+13.7%	+12.0%	+14.9%	+35.4%	+29.9%	+36.1%

区 分		ロシア	米 国	カナダ	オーストラリア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	26年度	3,200	4,900	1,900	4,100	9,700	253,100
	25年度	3,100	4,000	1,700	3,100	9,200	197,000
	前年同期比	+3.2%	+22.5%	+11.8%	+32.3%	+5.4%	+28.5%
第2四半期 (7~9月)	26年度	4,600	8,900	3,300	2,900	14,900	400,900
	25年度	4,000	7,700	3,200	2,500	14,100	333,400
	前年同期比	+15.0%	+15.6%	+3.1%	+16.0%	+5.7%	+20.2%
第3四半期 (10~12月)	26年度	2,300	5,600	3,000	4,300	20,900	332,200
	25年度	2,700	4,700	2,600	3,500	17,700	237,000
	前年同期比	△14.8%	+19.1%	+15.4%	+22.9%	+18.1%	+40.2%
第4四半期 (1~3月)	26年度	2,700	22,400	5,500	27,400	36,300	555,100
	25年度	3,300	17,100	3,200	26,300	25,800	385,700
	前年同期比	△18.2%	+31.0%	+71.9%	+4.2%	+40.7%	+43.9%
合 計	26年度	12,800	41,800	13,700	38,700	81,800	1,541,300
	25年度	13,100	33,500	10,700	35,400	66,800	1,153,100
	前年同期比	△2.3%	+24.8%	+28.0%	+9.3%	+22.5%	+33.7%

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成26年度の全道179市町村における観光入込客数（実数）を合計した総数（延べ人数）は、1億3,343万人で、前年度に比べて1.2%の増加となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,279万人泊で、前年度に比べて2.1%の増加となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、オホーツク圏を除く5圏域が前年度に比べ増加しており、釧路・根室圏6.0%、十勝圏2.7%、道北圏2.1%、道南圏1.5%、道央圏0.6%の増加となりました。

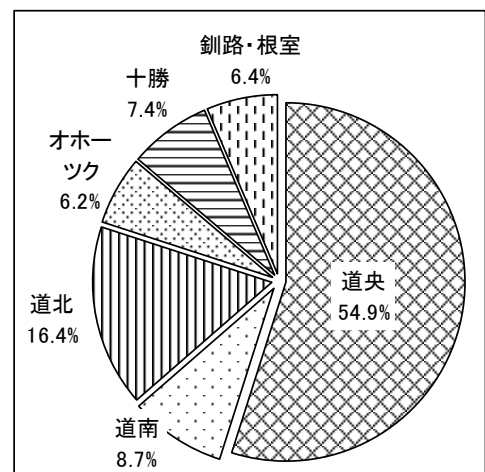
また、宿泊客延べ数では、すべての圏域が前年度に比べ増加しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道央圏	9月の大雨による支笏湖畔の国道の土砂崩れなどはありませんでしたが、余市町を舞台にした連続テレビドラマの放映や、小樽港や室蘭港などへのクルーズ船の寄港、春節時期をはじめとした外国人客の伸びなどにより微増となりました。
道南圏	前年に函館市で開催された大規模イベントの反動減はありませんでしたが、桜の開花時期がゴールデンウィークと重なったことや、5月の廃線を控えJR江差線の乗客数の増加のほか、11月から3月の天津－函館間のチャーター便による外国人客の増加などにより増加しました。
道北圏	8月に礼文町で土砂崩れを起こした大雨などはありませんでしたが、「青い池」（美瑛町）や「雲海テラス」（占冠村）などの人気が続けられ、9月には10年に一度の紅葉に恵まれ、冬季のイベントも好調だったことなどから増加しました。
オホーツク圏	7月から8月の女満別－伊丹の航空路線の再開や、平年より早い流水接岸などによる増加はありませんでしたが、「山の水族館」（北見市）の来場者数が落ち着いてきたことや、夏のイベント開催時に悪天候が重なったこと、冬期間の暴風雪に伴う通行止などにより減少となりました。
十勝圏	8月の帯広－中部の航空路線の再開や、国際農業機械展など大規模イベントの開催、冬季にはまとまった降雪によりスキー場の利用者が回復したことなどから増加しました。
釧路・根室圏	8月の釧路－中部の航空路線の再開、釧路港などへのクルーズ船の寄港の増加、知床横断道路が前年より早く開通したことや、冬季には全国規模のスポーツ大会の開催などから増加しました。

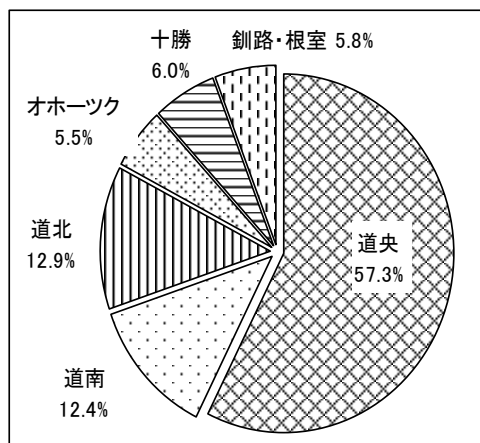
<圏域別観光入込客数(延べ人数)>

圏域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道央	7,319万人	+0.6%	+46万人	54.9%
道南	1,162万人	+1.5%	+17万人	8.7%
道北	2,185万人	+2.1%	+44万人	16.4%
オホーツク	830万人	△2.0%	△17万人	6.2%
十勝	993万人	+2.7%	+26万人	7.4%
釧路・根室	854万人	+6.0%	+48万人	6.4%
合計	13,343万人	+1.2%	+165万人	100.0%



〈圏域別宿泊客延べ数〉

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,879万人泊	+1.9%	+34万人泊	57.3%
道南	408万人泊	+0.8%	+3万人泊	12.4%
道北	422万人泊	+0.2%	+1万人泊	12.9%
オホーツク	180万人泊	+9.1%	+15万人泊	5.5%
十勝	198万人泊	+3.2%	+6万人泊	6.0%
釧路・根室	190万人泊	+4.4%	+8万人泊	5.8%
全道	3,279万人泊	+2.1%	+68万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数（実人数）を市町村別でみると、札幌市が1,342万人（前年度比1.1%減）で最も多く、次いで、小樽市745万人（同4.8%増）、旭川市535万人（同0.3%増）、以下、函館市、千歳市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数でみると、札幌市が1,110万人泊（前年度比1.9%増）で最も多く、次いで、函館市361万人泊（同2.1%増）、釧路市129万人泊（同7.6%増）、以下、登別市、帯広市、倶知安町、小樽市の順となっています。

〈観光入込客数(実人数)の多い市町村〉

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,342万人	△1.1%
2	小樽市	745万人	+4.8%
3	旭川市	535万人	+0.3%
4	函館市	484万人	+0.4%
5	千歳市	468万人	△7.0%
6	釧路市	392万人	+11.1%
7	登別市	354万人	+6.4%
8	洞爺湖町	279万人	+7.6%
9	喜茂別町	264万人	△0.3%
10	帯広市	258万人	+2.8%
11	上川町	206万人	+1.7%
12	七飯町	195万人	△1.3%
13	苫小牧市	186万人	+1.3%
14	石狩市	182万人	△0.0%
15	白老町	179万人	+2.3%
16	美瑛町	179万人	+19.9%
17	伊達市	177万人	+2.8%
18	壮瞥町	176万人	+5.1%
19	富良野市	172万人	△2.7%
20	二セコ町	159万人	+1.5%

〈宿泊客延べ数の多い市町村〉

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,110万人泊	+1.9%
2	函館市	361万人泊	+2.1%
3	釧路市	129万人泊	+7.6%
4	登別市	121万人泊	+0.2%
5	帯広市	102万人泊	+5.5%
6	倶知安町	97万人泊	+8.3%
7	小樽市	78万人泊	+3.9%
8	旭川市	74万人泊	+8.4%
9	上川町	72万人泊	△1.0%
10	富良野市	71万人泊	+3.0%
11	北見市	70万人泊	+34.5%
12	洞爺湖町	63万人泊	+9.6%
13	二セコ町	61万人泊	+11.9%
14	網走市	45万人泊	△0.2%
15	音更町	44万人泊	△0.3%
16	斜里町	42万人泊	△6.9%
17	留寿都村	40万人泊	+4.9%
18	稚内市	38万人泊	△4.5%
19	占冠村	38万人泊	+4.8%
20	伊達市	37万人泊	+32.1%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成26年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、470万1千人泊で、前年度に比べて27.5%の増加となりました。

国・地域別に見ると、台湾が151万8千人泊で全体の32.3%を占め最も多く、次いで中国が89万7千人泊で19.1%、香港が56万1千人泊で11.9%、韓国が43万1千人泊で9.2%、タイが30万2千人泊で6.4%、以下シンガポール、オーストラリアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が343万人泊と全道の73.0%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、道北圏の前年度比33.0%増をはじめ、他の5圏域でも増加し、全道では27.5%の増加となりました。

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア										
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	インドネシア	フィリピン	ベトナム
道央	703,103	382,704	898,557	429,142	181,701	93,138	243,694	2,713	28,558	10,052	2,048
道南	62,305	14,958	242,376	15,475	12,147	6,541	12,060	169	2,754	262	21
道北	85,257	20,933	237,559	56,147	29,465	11,600	36,774	273	4,432	1,339	309
オホーツク	14,786	4,993	31,872	23,832	6,600	2,634	4,204	51	266	285	78
十勝	13,071	3,501	48,545	23,069	13,566	3,375	2,102	16	1,205	31	33
釧路・根室	18,529	3,653	59,500	13,279	6,580	3,334	2,875	35	756	476	142
全道	897,051	430,742	1,518,409	560,944	250,059	120,622	301,709	3,257	37,971	12,445	2,631
前年度比	+117.9%	+43.3%	+16.1%	+8.8%	+2.1%	+25.6%	+22.7%	+36.3%	+63.2%	+129.9%	+107.0%
構成比	19.1%	9.2%	32.3%	11.9%	5.3%	2.6%	6.4%	0.1%	0.8%	0.3%	0.1%

圏域	ヨーロッパ				北米		オーストラリア	その他	計	25年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	17,180	19,267	6,615	6,174	72,710	13,818	189,487	130,012	3,430,673	2,670,416	+28.5%
道南	254	551	490	370	4,171	647	1,992	9,589	387,132	323,664	+19.6%
道北	2,511	1,192	1,572	980	5,964	1,516	19,281	22,716	539,820	405,839	+33.0%
オホーツク	371	481	524	352	1,892	263	777	2,521	96,782	78,830	+22.8%
十勝	170	106	241	282	1,669	328	11,200	2,719	125,229	107,549	+16.4%
釧路・根室	2,349	738	387	306	2,484	379	653	4,932	121,387	102,160	+18.8%
全道	22,835	22,335	9,829	8,464	88,890	16,951	223,390	172,489	4,701,023	3,688,458	+27.5%
前年度比	△8.7%	+38.4%	+18.1%	+34.8%	+23.3%	+37.1%	△3.8%	+7.0%	+27.5%		
構成比	0.5%	0.5%	0.2%	0.2%	1.9%	0.4%	4.8%	3.7%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が180万5千人泊（前年度比32.6%増）で最も多く、次いで登別市が37万3千人泊（同18.5%増）、函館市36万4千人泊（同21.1%増）、倶知安町29万2千人泊（同6.6%増）、上川町21万7千人泊（同20.6%増）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	1,518,409人泊	+16.1%
2	中国	897,051人泊	+117.9%
3	香港	560,944人泊	+8.8%
4	韓国	430,742人泊	+43.3%
5	タイ	301,709人泊	+22.7%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	1,804,999人泊	+32.6%
2	登別市	372,555人泊	+18.5%
3	函館市	363,560人泊	+21.1%
4	倶知安町	291,986人泊	+6.6%
5	上川町	217,154人泊	+20.6%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	405,004人泊	+125.0%
2	函館市	55,124人泊	+244.9%
3	登別市	50,125人泊	+185.2%
4	洞爺湖町	48,488人泊	+160.4%
5	壮瞥町	44,520人泊	+104.8%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	210,936人泊	+56.7%
2	登別市	56,067人泊	+15.1%
3	壮瞥町	21,580人泊	+147.4%
4	留寿都村	20,242人泊	+61.5%
5	洞爺湖町	18,351人泊	+60.5%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	491,136人泊	+25.5%
2	函館市	232,542人泊	+7.6%
3	登別市	172,584人泊	+4.7%
4	上川町	139,327人泊	+15.0%
5	洞爺湖町	80,220人泊	+34.0%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	241,740人泊	+10.0%
2	倶知安町	49,932人泊	+9.9%
3	登別市	34,962人泊	+9.2%
4	ニセコ町	29,753人泊	+45.9%
5	小樽市	17,451人泊	△23.2%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	81,320人泊	△7.0%
2	倶知安町	27,911人泊	+15.0%
3	登別市	16,139人泊	△14.1%
4	函館市	11,855人泊	+44.2%
5	上川町	11,702人泊	△25.1%

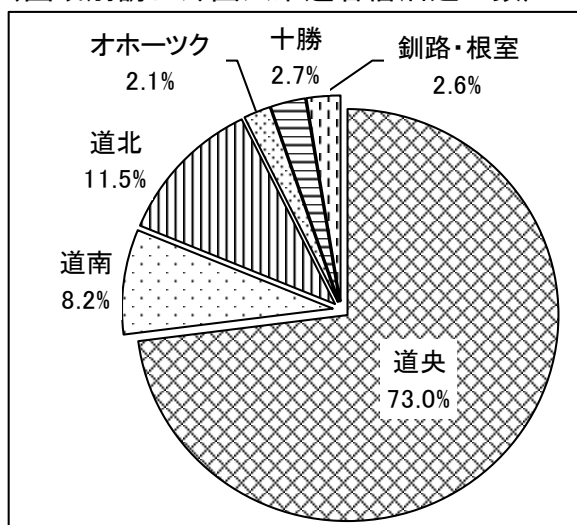
【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	143,740人泊	+11.8%
2	上川町	22,150人泊	+71.0%
3	登別市	17,451人泊	+9.9%
4	壮瞥町	13,151人泊	+17.5%
5	小樽市	12,718人泊	+80.5%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	120,074人泊	△16.6%
2	ニセコ町	22,129人泊	+11.0%
3	札幌市	20,462人泊	+9.3%
4	留寿都村	17,197人泊	+14.6%
5	富良野市	14,798人泊	+4.7%

〈圏域別訪日外国人来道者宿泊延べ数〉



Ⅲ 観光消費額単価

道内13の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

<平成26年度 観光消費額単価>

(単位:円)

区 分		日 帰 り	宿 泊	
第1 四半期 (4~6月)	道 内 客	観光	4,172 (4,046)	21,938 (21,212)
		ビジネス兼観光	5,269 (4,885)	14,608 (20,616)
	道 外 客	観光	9,600 (9,250)	75,431 (76,053)
		ビジネス兼観光	5,490 (5,242)	27,340 (25,477)
	外 国 人	観光	14,698 (13,653)	121,243 (120,124)
		ビジネス兼観光	8,703 (7,832)	45,506 (63,285)
第2 四半期 (7~9月)	道 内 客	観光	3,352 (3,314)	25,307 (24,571)
		ビジネス兼観光	5,184 (4,616)	15,008 (20,674)
	道 外 客	観光	23,606 (22,800)	84,474 (83,034)
		ビジネス兼観光	5,198 (5,267)	24,353 (24,548)
	外 国 人	観光	14,291 (14,221)	128,234 (126,413)
		ビジネス兼観光	7,406 (8,184)	56,536 (58,468)
第3 四半期 (10~12月)	道 内 客	観光	4,089 (4,016)	22,797 (22,325)
		ビジネス兼観光	3,757 (4,721)	15,210 (20,461)
	道 外 客	観光	20,843 (20,441)	67,436 (66,567)
		ビジネス兼観光	5,286 (5,199)	25,878 (25,115)
	外 国 人	観光	16,465 (13,276)	149,013 (135,207)
		ビジネス兼観光	8,940 (9,499)	58,901 (52,649)
第4 四半期 (1~3月)	道 内 客	観光	2,970 (2,916)	21,770 (21,268)
		ビジネス兼観光	* 3,508 (6,071)	* 24,218 (20,917)
	道 外 客	観光	23,700 (23,250)	75,957 (75,172)
		ビジネス兼観光	* 6,453 (5,200)	* 25,075 (28,176)
	外 国 人	観光	11,894 (14,560)	150,761 (120,791)
		ビジネス兼観光	16,177 (8,513)	92,482 (39,815)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

「観光消費額単価」は、道内13の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルから算出しています。

なお、H23年度から、外国人の「観光」については、上記の道内13の観光地点に加え、新千歳空港において実施した調査により算出していますが、「ビジネス兼観光」はサンプルが少ないため、観光庁から提供された単価を掲載しています。

また、H24年度第4四半期からは、道内客、道外客、外国人客とも、「ビジネス兼観光」は観光庁から単価が提供されることとなったため、その値を掲載しています。

* 平成27年11月に観光庁から消費額単価の訂正があったため、第4四半期の道内客、道外客のビジネス兼観光の消費額単価を訂正しました。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成26年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成27年8月

北海道経済部観光局観光戦略グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-564

（直通）011-204-5303

FAX番号（直通）011-232-4120
